

7. 「子どもの心の診療医」指導医研修

【目的】

心に何らかの問題を持つ子どもへの対応が求められているが、子どもの心の問題は、虐待を受けている子どもの心、発達に障害を持つ子どものころなどによって対応も大きく変わる。

今般は、虐待、小児心身症、発達障害に焦点を当て、最前線で対応されている方々を講師に、最新の情報、現場での対応について考える。

【対象】

地域の小児科医に伝達できる立場の小児科医

講義Ⅰ「チック症、トゥレット症の臨床」

○チックという症状は、比較的知られている

○安易な「様子見ましょう」はやめて！

- ・「様子を見ましょう」だけでは、保護者は不安になる
- ・「いつまで様子を見るか」を明確に（1か月等？）
- ・「早寝早起き」「ゲームの抑制」「保護者への対応」薬物療法をする前にも出来ることはたくさんある
- ・「症状が増悪したらすぐに対応する」を追加
- ・「安心」が最も大切

講義Ⅱ「誰でも知っていなくてはいけない虐待対応 BEAMS 1」

○BEAMS とは…医療機関向けの虐待対応プログラム。〈皆で虐待の問題に光をあて〉〈崩れ行く家庭を支え〉〈子ども本来の笑顔を取り戻してほしい〉

○BEAMS 1 で教える事…「虐待・養育の問題を気にしよう」「気になる親子を放っておかない」

○日常診療の範囲でできること…子どもと親を離す・親から話を聞く

虐待という言葉が「レッテル貼り、親子をさらに苦しめるためのもの」にするか、親子支援のきっかけの合言葉として活用するのかは、活用する人間次第

講義Ⅲ「気になる子どもの見立てとコツ」

○気になること…1,運動発達の遅れ、2,育てにくさ、3,言葉の遅れ、4,集団生活でのつまづき

○強調しすぎの落とし穴…普通の子ども・特別な子どもを強調しすぎ

○障害児とは…ほかの子どもと異なったニーズを持った特別な子どもと考えるべきではなく、通常の子どもの持つニーズを満たすのに特別な困難を持つ普通の子ども

○子育ての目標＝自己評価（セルフ・エスティーム）を高める

自分はある力がある 自分を守ってくれる人がいる 自分は大丈夫

保護者：子どもを信じてあげること

関係者：親子を支える

講義Ⅳ「起立性調節障害～明日から使える診療テクニック～」

○起立性調節障害（OD）って最近流行りはじめた新しいビョーキ？⇒NO！

○起立性調節障害とは…起立したら、循環の調整がうまくできない（障害された）病態

○OD 児への一般心理療法…受容・支持・保証

○OD 児への対応…心理にも身体にも偏り過ぎない（心のせいにもからだのせいにもしない）

バランス感覚が重要！

講義Ⅴ「コロナ禍の体験をばねにこどもの心のケアを考える」

○コロナ禍で子どもたちにおきていること

- ・ストレス反応…一人で抱え込まないように
- ・コロナに対する意識…自分と周囲の意識を話し合ってみよう
- ・子どもの話を聞いて…学年が上がるほど聞いてもらえないと感じる子が多いよう
- ・大人への伝言…子供たちの意見を受け止め一緒に考える存在でありたい

○コロナ禍の子ども支援

- ・今一度！子供に分かりやすい説明を！…正しい情報を正直に
- ・今一度！子どもの気持ちを聴きましょう…否定せず、受け止める